

2025 年度（2026 年 3 月期）第 1 四半期決算説明会質疑応答（要旨）

日時：2025 年 8 月 7 日（木） 16:00 – 17:00

【1Q 業績について】

Q. 受注高・売上高・営業利益が、会社計画（ワーストケース）に対してどうだったか。

A. 受注の計画に関しては、開示を控える。売上高は、計画を約 30 億円上回った。特に計測・航空が上振れた。営業利益は、計画を約 30 億円上回った。売上増による利益上振れが約 20 億円、粗利率改善による寄与額が約 15 億円である。成長投資に関しては計画通りであった。

Q. 米国の受注が好調だった背景を教えてください。米国の官庁/大学の予算削減による影響は受けているのか？

A. 決算説明会資料 13 ページに記載の通り、臨床検査会社向けに質量分析システムが好調で、リチウムイオンバッテリー評価向けも回復傾向。また、昨年 4 月に子会社化し 2Q から連結した Zef Scientific 社（MVS 事業）のサービス事業も大きく貢献した。一方、米政権の政策影響で、官庁/大学向けの業績は依然として厳しい状況。

Q. 中国について、分野別の受注状況を教えてください。

A. 官需は、政府支援策の効果もあり受注が好調に推移している。民需は依然として回復途上であるが、CRO/CDMO 企業に業績回復の兆しが見えつつあるなど期待が持てる。

【計測機器事業/営業利益について】

Q. 計測機器事業において、売上以上に営業利益が改善した要因を教えてください。

A. 昨年度に実施した価格改定の効果、過去 3 年間に投入してきた新製品の効果があった。加えて、経費削減の取り組みも寄与している。対前年では前年第 1 四半期の生産減による利益減が解消されたことも影響している。

【計測機器事業/中国の事業環境について】

Q. 中国での競合状況を教えてください。

A. ミドル・ローエンド領域では、国産優遇策を背景に地場メーカーが台頭し、競争力を強めている。一方で、ハイエンド領域では、欧米大手が現地でノックダウン生産を進めて対応力を高めている。当社としても、重要技術や IP の流出リスクにも十分配慮しながら、蘇州工場においてミドル・ローエンド製品の現地生産体制を強化し、国産品としての競争力を高めている。蘇州工場は、昨年度に拡張を実施しており、生産可能な製品ラインアップを拡大中である。

Q. 関税影響などから米国の競合企業と比較して有利な立場となる可能性はあるか。

A. 現時点では、当社が欧米企業より特段有利となるような動きが大きく広がっているわけではない。

Q. 中国市場の今後の見通しは

A. 民需の回復タイミングが焦点。今年度は薬典改訂に伴い製薬企業の設備投資や CRO/CDMO 企業にも業績回復の兆しが見えつつあり、回復を期待している。

Q. 計測/中国の現地通貨ベース受注増減グラフにおいて、第 1 四半期以降に記載された点線の意味を知りたい。また、対前年プラスになるのは前年のハードルが低いのか、実際に上昇トレンドにあるのか、どちらか。

A. 点線は、現状の方向感を示したもの。政府支援策や薬典改訂の効果に加え、CRO/CDMO 市場の活性化も見ら

れるなど、上昇トレンドにあるとみている。

【通期業績予想について】

- Q. 5月の通期決算説明会で示した関税の直接影響・間接影響について、足元および下期の見通しに変化があるか、定性的に聞かせてほしい。
- A. 直接影響は関税率低下により削減できる見込み。間接影響も好転する可能性はあるとみているが、現時点では地域ごとの影響度合いの変化などは不透明でお話できない。

以上